

## (2) 養護教諭として採用

### ① 生涯養護教諭として子どもの育成に当たる

#### 子どもたちの命を守る専門職としての誇りをもって子どもたちに寄り添い続けるJ先生

- 【教師像】○ 学校生活を送るための基盤となる心と体を守り育てるために高い専門性をもった教師  
○ 養護教諭の仕事に愛情と誇りをもった明るく前向きな教師

年齢

### 20歳代

- ・前向きに謙虚に学び続ける姿勢を身に付ける。
- ・学校における健康課題に対応できる力を身に付ける。

- エピソード
- 念願叶って養護教諭としての一步を踏み出しましたが、初任者であってもベテランであっても求められる力は同じであるため、自分自身の力不足に悩むことが多々ありました。時には「養護教諭に向いてないのではないだろうか？」とも思いましたが、他校の養護教諭や同僚の先生方に支えられながらできることを少しずつ積み重ねていくことで、やりがいを実感できるようになりました。また、子どもたちの笑顔に元気をもらい、仕事を続けていくことができました。
  - 経験不足で不安を感じていた救急処置の技術やカウンセリング能力を高めるために、先輩養護教諭や同僚の先生方に誘われて、研修会や講習会に積極的に参加しました。

身に付けた力等

### 30歳代

- ・心身の健康課題への組織的な対応における、専門的な立場からの発信力や調整力を身に付ける。
- ・実践や研究をまとめて発信することができる。

- 不登校や保健室登校の子どもたちとの関わりでは、焦らず、子どもたちに寄り添い待つことが時には辛く苦しいこともありました。しかし、先生方や保護者と連携し関わり続けた結果、子どもたちが、困難を乗り越え教室に復帰した姿を見た時には大きな喜びを感じるとともに組織的な対応の大切さを学びました。
- 県大会や九州大会での発表を経験し、これまでの職務を振り返り、実践をまとめることで自分自身の新たな課題に気づくことができました。また、多くの先生方からの助言等でまた頑張ろうという気持ちになりました。



## 40歳代

- ・保護者との連携を通して、ニーズに気づき対応することができる。
- ・養護教諭の人材育成に貢献することができる。

- 保護者と年代が近くなったこともあり、相談を受けることや講話をする機会が多くなりました。相談においては、誠意をもってじっくり耳を傾けることが保護者自身への支援となり、そのことで子どもが直面している問題の解決に直結する経験もしました。また、連携の中で保護者のニーズに気づき、養護教諭としてすべきことや学校としてできることを着実に行うことで良好な信頼関係を築くことができました。
- 初任者の指導教員を経験することで、初任者の考え方やアイデアに多くの刺激を受け、自分自身の勤務校における保健室経営にも工夫を凝らすことができました。また、初任者の悩みや不安の相談を受けることで初心に戻り、新鮮な気持ちで養護教諭という仕事に向き合うことができました。

## 50～60歳代

- ・養護教諭としての様々な経験を通して培った視点で学校運営に参画し、児童生徒等の健康課題の解決のための企画や立案ができる。
- ・時代の変化に柔軟に対応できるよう学び続ける姿勢をもつことができる。

- 子どもたちが抱える様々な健康課題を解決するための企画や立案に当たっては、関係教職員等と連携し組織として取り組む体制が求められていると感じるようになりました。養護教諭としての専門性だけでなく、教育現場で長年勤務した立場から人材育成等に努めました。
- 時代の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境が変化し、健康課題も刻々と変わる中、子どもの心と体を守る専門家として子どもたちに寄り添い続けることができるよう、研修会等に参加し、自己研鑽に努めました。  
また、研修会については、後輩の養護教諭にも声をかけ、一緒に参加しながら、ともに学ぶ姿勢を示すことにも努めていきました。

## ② 管理職として学校運営を通して教育の充実を図る

### 先輩養護教諭から託された「思い」を繋げるために前進し続けるK先生

- 【教師像】
- 健康課題のある様々な子どもたちに寄り添うため、自己研鑽に努める教師
  - 自分の知識や経験を生かしながら、養護教諭の人材育成に力を注ぐ教師

年齢

#### 20歳代

- ・ 組織で働く社会人としての基礎を身に付ける。
- ・ 同僚や先輩養護教諭から学び、保健室経営の基盤を構築していくことができる。

身に付けた力等

エピソード

- 採用後すぐに、学校保健に関する地域の事務局を担当することになり、組織で働くことの大切さ・面白さを学びました。
- 保健主事から、学校組織の中での養護教諭の立ち位置をしっかりと教えていただいたこと、同僚の先生方から教職員としての仕事のルールやマナーといった基礎を丁寧に教えていただいたことで、自分が学校組織の一員として、保健室での職務を円滑に進めていくための大事な土台を作ることができました。
- 目の前の子どもたちと向き合いながら、たくさんの先輩方にアドバイスをいただき、養護教諭の姿勢を学びました。

#### 30歳代

- ・ 様々な仕事も組織の一員として積極的に行うことで学校運営に貢献できる。
- ・ 勤務校や校種が変わり、新しい仲間との出会いで広い視野をもつことができる。

- 様々な研修会に誘っていただき、自己研鑽に励みました。参加した研修会で、特に養護教諭の先輩に当たる指導主事の助言やその姿勢に憧れていました。
- 養護教諭の職務の幅の広さから壁にぶつかっていたとき、保健室登校の生徒と3年間関わったことで、それまでの「自分がどうにかしてあげなくては」というあせる気持ちから「子どもの可能性を信じて、待つことも大切」だと気付きました。そして、子どもたちと向き合う時間を確保するために、パソコンを利用した養護教諭の職務の効率化を図るための方法を考えるようになりました。



## 40歳代

- ・ 養護教諭職を多角的に見つめ、課題解決に向けて説得力のある企画・立案・調整等を行うことができる。
- ・ 自分の知識や経験を生かし、養護教諭の人材育成に努めることができる。

- 養護教諭としての専門性を高めるために、自分の苦手分野について更なる資質向上を目指し、県外の研修会等に参加するようになりました。そのときに出会った講師の先生の教えから、自分のキャリアについて考えるようになりました。
- 研修会等で、先生方の不安や相談に対して、これまでの自分の経験を交えながら励ましたり助言をしたりとサポートをする機会が増えました。先生方が自信をもって前向きに子どもたちに向き合えるきっかけになれたことは、とてもうれしく思いました。
- 指導主事として、子どもたちの健康・安全のための施策や養護教諭の職務の効率化に向けたシステム作りについて日々考えていました。全てにおいてゼロから新しいことを始めることは困難ですが、先を見通した業務を行うことが重要であると改めて学びました。

## 50～60歳代

- ・ 保健室経営で培ったノウハウを、学校運営に応用することができる。
- ・ 広い視野で学校経営ビジョンをもち、先生達がやる気をもって仕事ができる環境づくりに努めることができる。

- 管理職として勤務する上で感じるのは、養護教諭の職務の特質が、そのまま学校経営に生かされるということです。企画・運営、外部折衝、児童生徒・職員・保護者対応、環境衛生など、初任者の時から日々求められた資質です。特に、初期対応は基本となるものです。報告・連絡・相談も忘れてはなりません。これらのことは、毎日の養護教諭の職務の中で培われたものだと思っています。
- 校内には、いろいろな特技をもった先生方がおられます。分からないことや疑問点は積極的に職員や先輩達に教えてもらうことで学ぶことができます。
- 様々な立場を経験したことで、養護教諭という職を多面的に見つめることができました。たくさんの先輩方や出会ってきた方々から託された「思い」を次の先生方へ繋げられるように、これからも努力していきたいと思っています。